

はじめに

今年度は質問が多く、主なものをQ & Aとしてまとめました。Q & Aは全国大会実施基準ではありませんので、補足資料としてご活用ください。

I. エントリーシートについて

質問 [エントリーシートの役割について]

プロジェクト発表でのエントリーシートの必要性について、発表原稿と趣旨が重複しているのではないか。また、県連から導入するのか。

(回答)

エントリーシートの役割は以下に示すものを判断するためのシートであり、発表原稿の趣旨とは異なります。

1. 本年度発表する生徒たちの活動開始時期が明確になっているか。
2. 研究が普段の学習の延長になっているか。
3. 分野を選択した理由が明確になっているか。
4. 継続研究の場合、当該生徒たちの取り組み内容が明確になっているか。

平成28年度以降の実施基準に明記されるため、県大会でも活用していただきますようお願いいたします。

質問 [エントリーシートの関係科目について]

項目「発表」、審査「発表内容」の審査項目「2 授業での学習を踏まえ計画的に研究が進められているか。」の「授業での学習」には、授業科目を履修せずに課外活動で研究班活動に自主的に参加するメンバーは加えてよいのか。

例) 授業では科目「畜産」を履修していない生徒が、畜産の営農について興味を持ち、自主的に畜産の研究班（プロジェクト）活動に参加し、メンバーとして発表会に参加することは可能か。

(回答)

「授業での学習」には、普段の授業で学習していることが望ましいですが、授業科目を履修せずに専門分会や地域分会の活動に自主的に参加するメンバーを加えてもよいです。例のように専門分会で取り組んでいればメンバーとしてプロジェクト発表会に参加することは可能です。

学校農業クラブ活動は、学習指導要領（農業）に位置付けられた学習活動なので、原則は履修科目を基礎としているいろいろな活動に発展させていただきたいと考えています。

質問

1. エントリーシートの「②研究内容」に「今年度の取り組み内容が明確に」とあるが、ここでいう「今年度」とは、当該発表年度のことか。
2. エントリーシートの①～③の欄に、図や表、写真を入れてもよいか。入れてもよい場合、文字数にカウントするのか。カウントする場合はどのようにカウントするのか。
3. 食育に関する研究を発表する場合、エントリーシートの関係科目に教科「家庭」の科目が入ってもよいか。
4. エントリーシートに記載した関係科目は、発表者及び発表補助者のうち、誰かが学んでいればよいか。

(回答)

1. ここでいう「今年度」とは、継続研究の場合、発表内容の最新の1年間程度の活動期間と考えてください。例えば、3年間の継続研究であれば、3年目の内容です。
2. エントリーシートの目的は、活動期間、関係科目、分野を選択した理由を明確にすることにあります。よって、図や表、写真などはエントリーシートには含めないようお願い致します。図表や写真は発表原稿に入れてください。
3. 農業クラブ活動は、学習指導要領の教科「農業」に位置付けられています。このため、農業クラブの発表会である研究発表のエントリーシートの記載には、教科「農業」の科目以外は該当しません。また、関係科目としてあるため、発表内容に関係のある（または近い）農業科目の記載をお願いします。
4. エントリーシートに記載した関係科目は、全員が学習していることが望ましいです。ただし、授業科目を履修せずに専門分会や地域分会の活動に自主的に参加するメンバーであっても結構です。

質問 [関係科目について]

例えば食品化学科の生徒が麦を栽培し、それを加工し販売やイベント参加をして調査した場合、食品製造や食品流通の授業はあるが、作物は麦の栽培に関係した「作物」が学科の教育課程の科目にはない。この場合、学習指導要領にある科目であれば関連科目として「作物」を記入してよいのか。また、関連科目は「農業」の科目の中からでないとならないか。商業の「マーケティング」なども考えられるので、それらも記載してよいのか。

(回答)

エントリーシートに記載した関係科目は、全員が学習していることが望ましいです。ただし、総合学科で農業の科目を履修していない学校もありますので、履修していない科目（教育課程表に掲載されていない科目）であっても関係科目に記入していただいてもかまいません。ただし、あくまでプロジェクトの内容と関係している科目名を記入してください。したがって、この場合、学習指導要領にある科目の「作物」を記入しても結構です。

農業クラブ活動は、学習指導要領の教科「農業」に位置付けられています。そのため、農業クラブの発表会である研究発表のエントリーシートの記載には、教科「農業」の科目以外は該当しません。したがって、関係科目は「農業」の科目の中から選択して記入してください。また、関係科目としてあるため、発表内容に関係のある（または近い）農業科目の記載をお願いします。

質問

学校独自の学校設定科目の場合、その科目を記載してよいのか。

(回答)

農業クラブ活動は、学習指導要領の教科「農業」に位置付けられています。このため、農業クラブの発表会である研究発表のエントリーシートの記載には、教科「農業」の科目以外は該当しません。教科「農業」として各学校が設定し、都道府県教育委員会認めた「学校設定科目」は記載することができます。

質問

エントリーシートの文字数は「1,000字程度」とあるが、どこまでが許容範囲か決めてないと解釈により不公平が生じるのではないか。

(回答)

「1,000字程度」という基準を守り、作成して頂ければ不公平が生じることはありません。誰の目で見ても「1,000字程度」と判断できる文字数で作成をお願いします。

質問 [活動開始時期の書き方について]

プロジェクト発表会において、2年間継続的に行った研究を2年目に発表した場合、「本年度発表内容の活動開始時期」は1年目と重複して良いか。前年度以前から活動している場合の活動開始時期は、大きなテーマが同じ場合、さかのぼった年月を記入するのか、それとも同一の小テーマまでさかのぼった時期でよいのか。

(回答)

2年間の研究の場合、発表の中心が2年目であれば、「本年度発表内容の活動開始時期」は2年目の年月を記入してください。そして、「前年度以前から活動している場合の活動開始時期」を1年目の年月で記入してください。また、発表の中心がどちらともいえない場合は、1年目と重複してかまいません。本年度発表する生徒がその研究に携わった時期が明確になるように記入していただきたいと思います。

前年度以前から活動している場合の活動開始時期は、いつからそのテーマで研究を開始したのか知りたいので大きなテーマが同じ場合、そこまでさかのぼった年月を記入してください。

II. 発表分野、地域創造について

質問 [分野の決め方と地域創造について]

プロジェクト発表会の分野の内容について、「地域の伝統野菜を生産し漬け物に加工、道の駅で販売した」などの場合、3つの分野の内どれにも当てはまるのではないか。また、どの分野に出ても「これは他の分野」と判断される恐れがあると感じるが、どうすればいいのか。また、プロジェクト審査基準の内容の「3. 持続的・安定的な地域環境や地域創造に配慮した内容となっているか」の項目が何を指すのか分からないため、地域創造について教えていただきたい。

(回答)

3つの分野にまたがっていた場合、どの分野に力を入れたのか、エントリーシートで明確に示してください。また、記録簿や発表においては、力を入れた分野の内容の配分を多くするなどの工夫をしてください。

地域創造とは、地域の抱えている問題を明らかにして整理し、どのような方法でその問題を解決するかを考え、その解決策を地域に普及させ、地域農業や地域社会の発展に貢献することです。一例をあげるとすれば、地場特産品を活用した地域農業の活性化、地域に根差した緑化活動、地域と農業をつなぐ交流活動などです。質問事項の「地域の伝統野菜を生産し漬け物に加工、道の駅で販売した」なども該当します。このように「地域創造」には様々な内容が考えられます。このため、自由な発想で地域密着型のプロジェクト学習に取り組むことが重要だと考えます。

質問 [地域のとらえ方について]

地域のとらえ方について、項目「発表」、審査「発表内容」の審査項目「3 持続的・安定的な地域環境や地域創造に配慮した内容となっているか。」の「地域」とは具体的にどこまでと解釈してよいか。

例) ケース1. 県内、学校のある地域。

ケース2. 学校のある地域で富栄養化が問題となっている湖について、マリーゴールドの水
上花壇を使った水質改善技術を開発した。その成果を全国で同じような問題を抱
える地域にその技術を紹介し、普及した成果を発表する。

ケース3. A県の生徒が、B県の地域にある伝統野菜に着目し、B県という県外の地域で栽
培や産地化に関するプロジェクト活動を展開し、その成果を発表する。

(回答)

ケース1、2、3いずれも研究対象に該当すると考えます。地域は特に限定していませんので、
様々なケースが考えられ、自由な発想で地域密着型のプロジェクト学習に取り組んで欲しいと思いま
す。ただし、ケース3は、なぜA県の生徒がB県まで行き研究活動をするのか、その理由を明確にし
る必要があると思います。

質問 [発表分野の判断について]

発表分野の判断は、エントリーシートに基づいて審査員が判断してよいか。

例) 地域の未利用資源（油脂用ヒマワリの絞りかす）を畜産で飼料として活用し経営改善に
つなげる、さらに、絞りかすを製品化（紙など）するなどⅠ類からⅢ類いずれにもまた
がると考えられる場合の最終判断は誰が行うのか。

(回答)

エントリーシート導入の目的は、活動期間、関係科目、分野を選択した理由を明確にすることにあり
ます。研究が3つの分野にまたがっていた場合、審査員が判断するのではなく、発表者自身がどの
分野に力を入れたのか判断して、エントリーシートで明確に示してください。その際、エントリー分
野の選択理由がわかりやすくなるように、「研究目的」、「研究内容」、「成果・課題」の3つの視点で
記入してください。第67回春季代議員会報告書P65にエントリーシートの記入例がございますの
で、ぜひ参考にさせていただきたいと思えます（P74の意見発表のエントリーシート記入例でも参考
になります）。また、記録簿や発表においても、力を入れた分野の内容の配分を多くするなどの工夫
をしてください。

Ⅲ. 発表方法に関する質問

質問

「発表は視聴覚機器を使用した演台からの口頭発表とする」となっているが、演台以外からの
口頭発表は認めないということで解釈してよいか。

(回答)

演台以外からの口頭発表は認めないという解釈でよろしいです。

質問 [発表中の特殊なパフォーマンスについて]

項目「発表」、審査「発表方法」の審査項目「2 発表方法や態度は適切であり、分かりやすいものであったか。(発表中の特殊なパフォーマンスを評価するものではない)」で「発表中の特殊なパフォーマンス」とは、過去の大会などで問題となった事例を具体的に教えてほしい。また、審査の運用方法、どの程度を許容とするのか。

例) 歌、手話、日本語以外(英語など)によるスピーチ、身振り手振り、着ぐるみの着用など

(回答)

質問の例は、いずれも特殊なパフォーマンスとして審議の対象になりえます。その他にも演示ではなく演技をしたり、鳴り物などを使用したりすることも審議の対象となります。様々なケースが考えられますが、発表者の皆さんが演台からの口頭発表に専念することを心掛けていただければ、特殊なパフォーマンスはなくなると思います。

審査の運用方法ですが、審査員で協議していただき、特殊なパフォーマンスとして判断すれば、審査項目の発表方法2のところで禁止事項を行ったことを踏まえた評価をしていただきます。

また、過去大会において演台から離れた場所での発表が数多く見られましたが、新基準からは、「発表は視聴覚機器を使用した演台からの口頭発表とする。」と明記されていますので、あわせて生徒へのご指導をよろしくお願いします。

質問 [プロジェクト発表会の発表終了後の質疑応答について]

ケース1. 全国大会では、審査員の質問に対し、回答する際に3人の発表者(A、B、C)のなかで話し合った後、発表者Aが審査員の質疑に対し回答することは認められるか。違反であるならば、審査上どのように対応しているか。

ケース2. 全国大会では、審査員の質問に対し、発表者(A、B、C)の内、発表者Aが回答した。回答内容が不十分であるため、再度、審査員より質問され、解答者代わり、発表者Bが審査員の質疑に対し回答することは認められるか。違反であるならば、審査上どのように対応しているか。

(回答)

群馬大会の「プロジェクト発表会実施要項」に「質疑は発表者のうち1名が回答する。発表者が複数の場合は、あらかじめ1名を選出しておくこと」と明記されています。したがって、ケース1は認められません。また、新基準においても、「全国大会は、「全国大会実施基準」と全国大会事務局が作成する「プロジェクト発表会実施要項」に沿って実施され、それに掲載されていない内容は禁止とする。」と明記されています。審査については、禁止事項を行ったことを踏まえた評価をしていただきます。ケース2も認められません。理由と審査上の対応はケース1と同様です。

質問

- ・「口頭発表を行っている者」が、レーザーポインタを操作しながら口頭発表をすることはルールに抵触しますか?
- ・「口頭発表者」が2人でステージに立ち、そのうちの1人(A)が口頭発表している間は、もう1人(B)がレーザーポインタを操作し、ほどなく交代して(B)が口頭発表し、(A)がレーザーポインタを操作する。これはルールに抵触しますか?

(回答)

実施基準に「発表者は口頭発表を行う者」と明記されています。発表者は発表に専念していただき、レーザーポインタは、補助者が行うようにして下さい。

補足説明として、発表者・発表補助者の役割および発表時の場所の例を以下に示します。

発表者：演台からの口頭発表とする（舞台上）。複数（3名以内）で担当することも可。

発表補助者：パソコンの操作（舞台下）。実物展示（舞台上）。レーザーポインタでの指示（舞台上か下）

質問 [エントリーについて]

2つ以上の分野に同一校の「同一メンバー」がエントリーすることは、発表予定時間がずれていれば可能でしょうか。

(回答)

全国大会では複数競技、複数分野へのダブルエントリーはできません。

理由は以下の通りです。

1. 多くのクラブ員に参加の機会を与えていただきたいため。
2. 参加するクラブ員に対しては、発表に向けて事前に十分な準備をしていただきたいため。
3. 一人の者に対して複数の大臣賞を与える推薦はできないため。

質問 [発表および準備時間について]

「～発表内容の宣伝や拡大と認められた場合～」とは、具体的にどんな事例か。

例) 発表者がプロジェクトで作った製品をもって口頭発表を行う。

(回答)

質問の例を含め、発表準備時間に発表時間10分で収まらない内容を紹介するなど、準備時間を発表の延長として利用することです。次のようなものが該当します。

1. 準備時間内に本発表に使用しない発表に関係するスライド（グラフや写真など）を用いて発表内容を紹介する。
2. 準備時間内に発表原稿に書かれていない研究内容を紹介する。

質問 [計測機器の持ち込みについて]

「～発表中の補助者からの掲示や合図は認めない。」とあるが、発表者内での掲示や合図は可能か。

(回答)

どのような掲示や合図を考えているかわかりませんが、発表中に発表者内での掲示や合図が聴衆側から見て取れれば、誰が見ても違和感を抱くと思います。実施基準に掲載されていないことは、やってもいいというわけではありません。「全国大会は、「全国大会実施基準」と全国大会事務局が作成する「プロジェクト発表会実施要項」に沿って実施され、これらに掲載されていない内容は禁止とする。」と明記されていますので、発表者内での掲示や合図はしないでください。計測機器の持ち込みは制限していませんので、個々の判断で対応できるよう練習を重ねてください。同じ基準に則って公平な発表をするよう心掛けてください。

IV. 活動記録簿について

質問

活動記録簿の継続研究のまとめ方について具体的な方法が明記されておらず、自分たちが良かれと思って作ったものが減点対象になってしまうのではないかと思い困惑している。あいまいな表現ではなく実施要項として客観的に見て継続研究部分をどのようにまとめたらよいか明示してほしい。

(回答)

継続研究であれば、研究経過も大切です。継続研究分をどのようにまとめたらよいか実施基準の中では具体的に明示できませんが、記録簿を作成するうえで次のようなことを心掛けてください。

本年度発表する内容より、過去の研究内容の資料が多くなならないようなページ配分にしてください。あくまでも本年度発表する生徒さんが携わった研究内容を中心に作成するようにしてください。また、記録簿の審査時間も限られていますので、時間内に評価できるように、不必要な資料は省き、まとめや整理を十分にして、分かりやすい記録簿にしてください。記録簿は決して厚さを競うものではありません。創意工夫をして記録簿の厚さにとらわれることなく、自由な発想で作成するよう心掛けてください。

V. 審査基準と配点について

質問

事前資料の審査項目における「1 発表原稿は誤字脱字なく、書かれているか」について、誤字脱字についての基準や目安を説明して欲しい。また、誤字や脱字が1文字で何点減とするか、段落の表記や国語的な表現をどのように取り扱うか示してほしい。

(回答)

以前より発表原稿の誤字脱字の多さについては問題視されてきました。誤字脱字があることにより、発表内容が正確に伝わらないなどの問題も考えられます。こうした点から、原稿の誤字脱字については審査員で協議のうえ、判断して頂きます。また、「段落の表記や国語的な表現」については発表者により異なるため、一概には言えません。「発表内容が正確に伝わらない」といった問題を避けるために設置された採点項目であるため、こちらもこの観点から審査員に判断頂くことになります。

目安の提示については、目安が基準として扱われる恐れがあり、また様々なケースが想定されるため、慎重に検討する必要があると考えております。

現在の審査基準は、審査員が多様な内容の発表原稿に教育的な配慮をしながら個別に対応できるため、審査員は運用しやすいと考えております。審査はプレイスナンバー方式で順位が決定されるため、各審査員は基準内で差がつくように審査をしていただければ結構です。

質問

事前資料の審査項目1「発表原稿は誤字脱字なく、書かれているか」は、変換ミスなどであれば採点できる。しかし、独特な当て字や呼び方などの造語を伴う場合は判断が難しくなる。そして、(3)発表方法⑤の「事前に提出した発表原稿と発表内容が異なることは認められない。ただし、発表の一字一句の違いを判断するものではない。」とあるため、発表中の違いを判断せざるを得ない審査基準となるのではないか。また、年度によって基準が変化しないように、何文字で何点にするのか統一した基準を確認したい。

(回答)

独特な当て字や呼び方などの造語などについては、審査員と協議の上、判断してください。

「発表中の違いを判断せざるを得ない審査基準となるのではないか」は、発表原稿と発表内容の違いを調べる係を設けるなどして対応をお願いします。また、何文字で何点にするのかは、審査員と協議のうえ判断してください。

基準の提示については、目安が基準として扱われる恐れがあり、また様々なケースが想定されるため、慎重に検討する必要があると考えております。

現在の審査基準は、審査員が多様な内容の発表原稿に教育的な配慮をしながら個別に対応できるため、審査員は運用しやすいと考えております。審査はプレイスナンバー方式で順位が決定されるため、各審査員は基準内で差がつくように審査をしていただければ結構です。

質問 「発表原稿と活動記録簿の信頼性、再現性のとらえ方について」

項目「事前資料」、審査「発表原稿と活動記録簿」の審査項目「4 信頼性、再現性のあるデータとなっているか。」は、具体的にどのような基準で運用するか。

(回答)

審査員には、「研究から得られたデータがどのような結果になったのか」、「結果からこのようなことが言える・分かったのか」、「結果からこの研究はこのように使うということが出来るのか、あるいはこのような場面に応用できそうである」等の研究結果が適正なデータに基づいて結論付けられているか審査していただきます。誰が見ても納得のいくデータであれば信頼性、再現性のあるデータであると言えます。

質問

エントリーシートの評価について、意見発表とプロジェクト発表で審査に差がある。意見発表は事前資料として審査され、5点の評価となっているがプロジェクト発表は審査の対象さえなっていない。「評価する」または「評価しない」のどちらかで揃えるべきではないのか？

(回答)

審査項目では、「発表原稿はエントリーシートの内容を踏まえた構成であるか」としているため、あくまで発表原稿を審査するものでエントリーシート自体を評価するものではありません。意見発表では、発表の内容が事前提出の発表原稿に記載されているため、事前に審査することができます。一方、プロジェクト発表ではスライド等を含めた内容を発表会の当日に審査します。そのため、プロジェクト発表における「エントリーシートの内容を踏まえた構成であるか」は、発表内容の項目と致しました。